

校長室だより No 26

通知表は年 2 回になります

2022年 3月10日 柏市立土小学校 校長 梅津 健志

前号では、コミュニティ・スクールについて概要をお伝えしました。それに伴い、本校の授業づくりの方針を先生たちが話し合い、「活かす学び」と決めました。学習したことを実際の場や生活で活かせるように身につけさせていこうということに挑戦していきます。そこで、来年度は評価の2期制を取り入れていきます。学期については教育委員会規則で決まっております3学期ですが、通知表として学習の状況をお伝えする時期は9月末と3月末の2回にしていきます。その理由は以下の2点です。

①学んだことを活かすには、時間的な余裕や活かす機会を経験する必要があります。半年の期間で、何を学びどう活かせるようになったかを見取る必要があるためです。②評価は学習した結果を査定したものではありません。学習した結果を次にどう生かして取組むかを示すものです。どのように学び、次の取組みどうにつなげていくかを見取るには、ある程度の期間が必要だからです。

現在の学習評価は到達度評価で、ある一定の基準に全員を到達させなければなりません。従って通知表で結果をお伝えする前に、事前にどのような状況かを説明する機会を設けます。それは、従来通りに行う夏休みの個人面談と、12月には希望性の個人面談を位置付けて、途中段階の様子を保護者の皆様に伝え、共通理解を図った上で指導に活かしていきたいと考えています。

さらに普段の授業では、子供たちに「どのような力をつけるために、どのような学習を行っていくのか」を伝えて、学ぶ内容を意識して取組めるように工夫していきます。これは今年度も学習全体の見通しを持つ時間を大切にしたり、学習のまとめを自分のことばで書いたりする活動を通して、何を学びどれだけ身に付いたかを子供自身が実感できるようにしています。来年度はさらに工夫していきます。

評価が2回になることによって7月と12月の短縮日課等を廃止し9月と3月の2回とします。そのため給食は設定できる最大の185日とし（本年度より2日増）、授業時間数も確保していきます。7月や12月にも学校行事や校外学習を位置付ける予定もあります。地域社会とつながり、教科で学んだことを活かす場をつくりながら、実際に学んだことを活かす経験を通して、確実な学力にしていくために、6か月に1回の通知表の発行にして、長いスパンで子供たちの学びの空間を作り、学ぶことが楽しい、もっと学びたい、課題解決をしていきたい、という子供たちを一人でも多く土小学校の中で育てていきたいと考えています。